

私は、札幌市で生まれ育ち、小中高大学と札幌でそのまま育ちました。2010年(平成22年)に株式会社ドーコンに入社しました。2014年(平成26年)に初受験で技術士(建設部門)に奇跡的に合格しました。当時は「最年少技術士」と呼ばれていた部分もありましたが、取得から約10年がたち、早く取れたメリットを享受しながら技術士として過ごせたと思っています。

技術士を取得してからを振り返ると、まず一番大きいのは北海道本部青年技術士交流委員会に入ったことです。技術士登録後、上司に誘われて入会し、それまであまり経験がなかった同年代他社の技術者との交流、全国の青年委員会のみなさんとの交流、仕事では経験しないようなイベントの企画など様々な経験をすることができ、現在は当委員会の幹事長を務めております。また、「技術士を知ろう」という企画では、高専や大学に技術士の仕事を授業で紹介(技術者のミライ研究委員会)したり、近年では小学校でも実施したりと技術士の知名度向上にも少しは貢献できていると感じております。(写真は青技交のテクニカルツアーでの一コマ)

仕事面では、技術士取得のおかげ?で、茨城県つくば市の国土交通省国土技術政策総合研究所に2018年度(平成30年度)から2年間出向し、道路構造令の改正等に携わることができました。国総研在籍時には、イギリスのロンドン交通局(Transport for London)へのヒアリング等、初めて海外出張も経験することができました。現在は主に交通安全事業や防災・減災分野の仕事に従事しており、今後も「技術士」として、様々な場所で交流を図りながら全力で頑張っていきたいと思います!

高橋 歩夢 (たかはし あゆむ)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社ドーコン



→次号は、須田徹央さん(建設部門)

1971年生まれで2000年に独立行政法人化前の道立林産試験場に就職、2016年に技術士登録して現在に至っております。勤務先については前号の朝倉さんの記事を参考にさせていただければと思いますが、現在の私の担当業務は、木質バイオマスのエネルギー利用全般、特に燃焼によるエネルギー利用と、燃焼残渣として発生する燃焼灰やチャーの利用法開発などです。

最近、かなり昔に在籍していた方の研究関係資料を整理する機会があり、たまたま自分が生まれた頃の日付が書かれてある実験メモを発掘したので、単に処分するのも忍びなく、せめてPDF化くらいはしておこうと業務の合間に資料を眺めていました。その当時の文献のコピーは感熱紙が青焼き印刷が主流のようで、50年近く経った現在では、見えにくくなってしまったものもありました。また、試験データはチャート紙から読み取っていたり、試験結果をグラフにするときは方眼紙に手書きで書いていたり、時代を感じるものでした。昔の研究者は、几帳面に正確にデータ収集していたように感じましたし、今の我々でも、測定データのチャート紙からどんな実験をしていたか想像できそうです。

最近、残念なことに、建設中のビルの施工不良と数値の改ざん、新幹線トンネルに使われたコンクリート品質の虚偽報告事例などもあり、仮にこれらの事例に技術士がかかわっていれば、技術士の3義務の中の信用失墜行為の禁止に反するといえるでしょう。正確な試験データの収集など研究・業務に真摯に取り組む姿勢は、今の研究者や技術士も受け継いでいく必要があると思いますし、改めて技術士の3義務2責務について考える必要があると感じる今日この頃です。

西宮 耕栄 (にしみや こうえい)

●森林部門(林産)

勤務先

(地独)北海道立総合研究機構
林産試験場



→次号は、渡辺誠二さん(森林部門)